

## 「若者の自立意識に関する調査」の概要

### 1 調査のねらい

県内に在住している若者の生活や考えを知ること、就学・就労に役立つ施策を実施する基礎的な資料を作成するとともに、ひきこもり等自立に関する問題について、いかに対応していくかを検討する際に活用することを目的として実施しました。

### 2 調査の概要

- ①調査対象者：県内に居住する満15歳以上35歳未満の者  
A1調査 一般個人対象(2,000名)  
A2調査 ひきこもりに係る相談者等を対象(65名)
- ②調査方法：郵送による無記名アンケート調査
- ③調査期間：平成21年6月12日～平成21年8月31日
- ④分析：この調査においては「ひきこもり群」、「ひきこもり親和群」、「一般群」に分類し、分析

### 3 回収結果

A1調査	953名	有効回収率	47.7%
A2調査	17名	有効回収率	26.2%

## 各群の出現率について

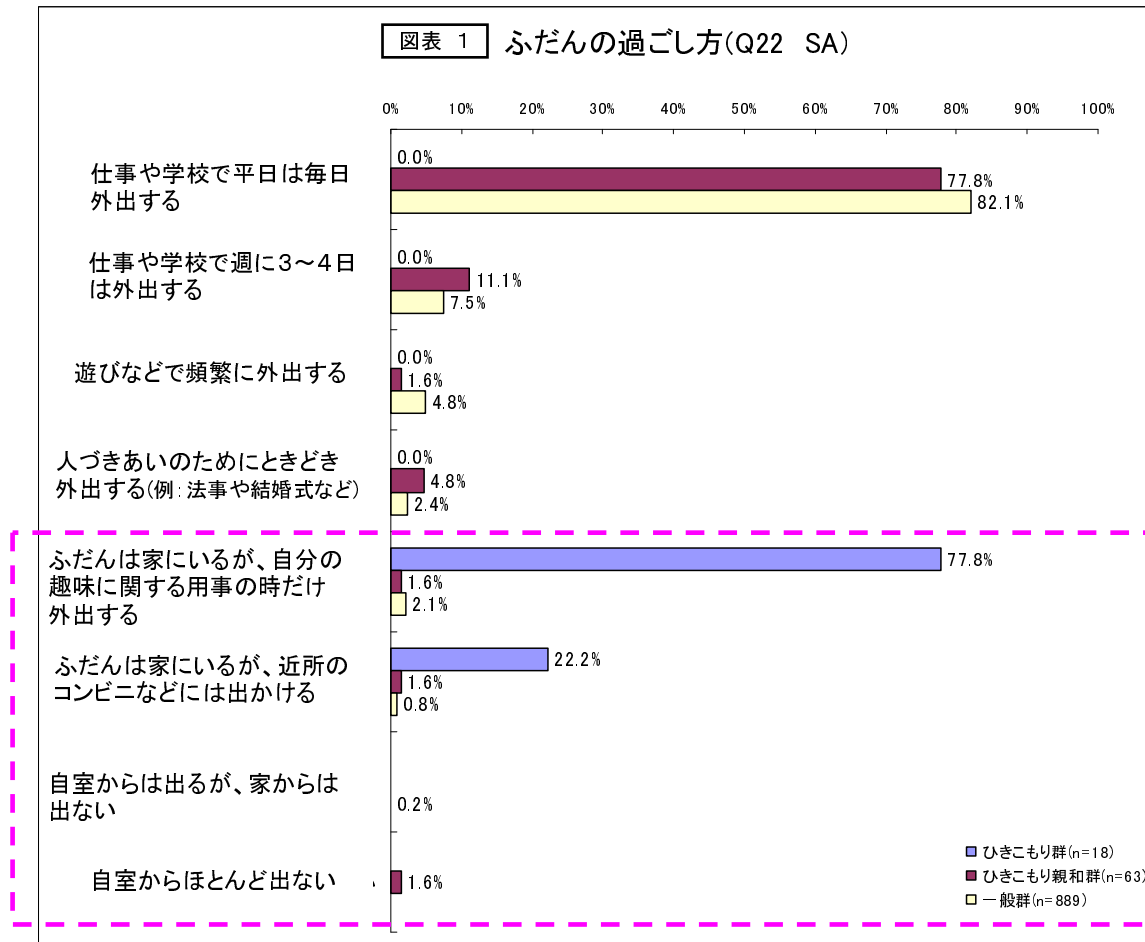
・「ひきこもり群」	13名 (1.4%)
・「ひきこもり親和群」	61名 (6.4%)
・「一般群」	879名 (92.2%)
計	953名 (A1調査)

(参考：東京都)

・「ひきこもり群」	10名 (0.72%)
・「ひきこもり親和群」	66名 (4.8%)
・「一般群」	1,306名 (94.1%)
計	1,388名

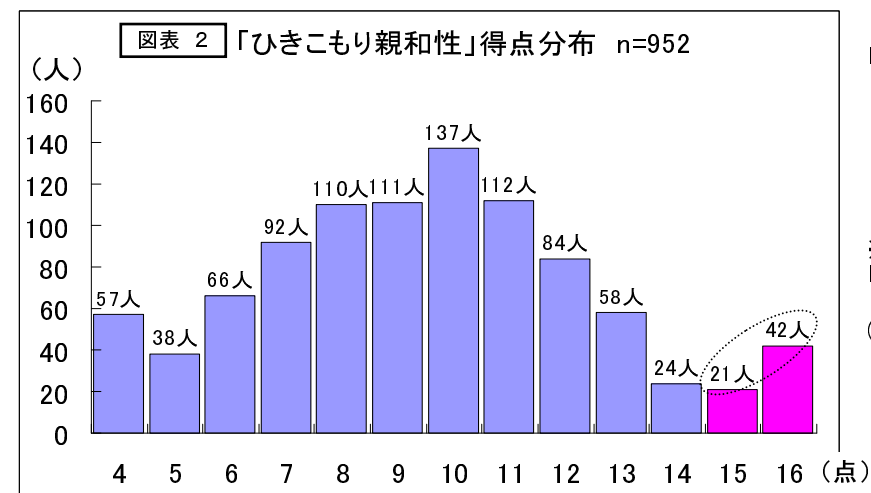
## 「ひきこもり群」の同定

図表1の最後の4項目いずれかを選択している者46名の内、失業して6ヶ月以内、明らかな虚偽などの回答などを除いた13名をひきこもり群とした(A1調査)。加えて、A2調査より5名の「ひきこもり群」が同定され、18名が解析の対象になった。



## 「ひきこもり親和群」の同定

ひきこもりに親和的な傾向を示す者を「ひきこもり親和群」として同定した。アンケート調査から下記に示している「ひきこもり親和性」項目の合計得点を基に判定した。分類の基準については、「ひきこもり親和性」項目の合計得点の分布等を参考に、15点以上の得点を示した者63名を「ひきこもり親和群」とした(図表2)。



「ひきこもり親和性」項目(調査項目:Q37)

21. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちが分かる
22. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
23. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
24. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

※ひきこもり親和性得点は、上記の質問項目への回答を「はい(4点)」「どちらかと言えばはい(3点)」「どちらかといえばいいえ(2点)」「いいえ(1点)」と得点化し、各調査対象者について合計得点を算出したもの。(得点可能領域は4～16点)

# 「ひきこもり群」の特徴

## ○ 「ひきこもり群」は、男性が多い(図表3)

「ひきこもり群」では、男性が61.1%(11名)、女性が38.9%(7名)で、「ひきこもり親和群」では、男性が34.9%(22名)、女性が65.1%(41名)。「ひきこもり群」と「ひきこもり親和群」の男女比は、ほぼ逆転。

図表 3 Q1 性別(SA)

	性別		合計	
	男性	女性		
ひきこもり群(n=18)	11 61.1%	7 38.9%	18 100.0%	(東京都:男性68.8%、女性31.3%)
ひきこもり親和群(n=63)	22 34.9%	41 65.1%	63 100.0%	(東京都:男性30.3%、女性69.7%)
一般群(n=889)	385 43.3%	504 56.7%	889 100.0%	
合計(N=970)	418 43.1%	552 56.9%	970 100.0%	

下段はそれぞれの群内での比率を示す

## ○ 「ひきこもり群」は、比較的高年齢層が多い(図表4)

本調査においては、「ひきこもり群」では77.7%(14名)が25歳以上であり、「ひきこもり親和群」では54.0%(34名)が24歳以下であった。「ひきこもり群」は比較的高年齢であり、「ひきこもり親和群」は比較的若い年齢層に集まっていた。

図表 4 Q2 年齢層(SA)

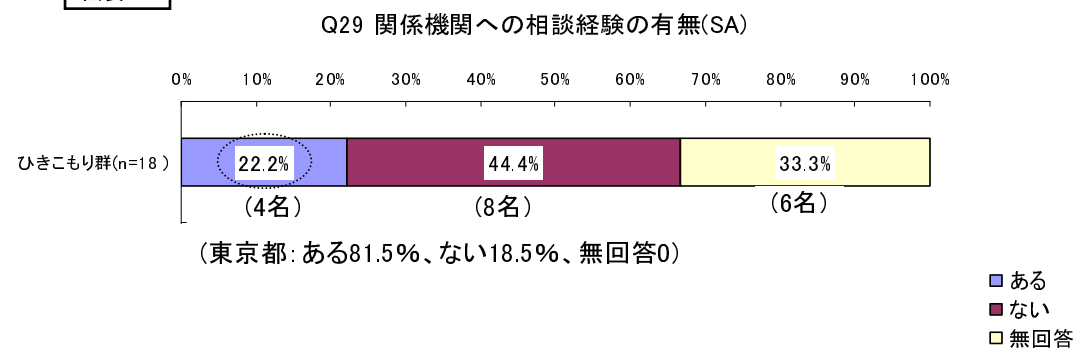
	年齢層				合計	
	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳		
ひきこもり群(n=18)	1 5.6%	3 16.7%	6 33.3%	8 44.4%	18 100.0%	(東京都:25~29歳15.6%、30~34歳43.8%)
ひきこもり親和群(n=63)	19 30.2%	15 23.8%	15 23.8%	14 22.2%	63 100.0%	(東京都:15~19歳18.2%、20~24歳36.4%)
一般群(n=889)	198 22.3%	197 22.2%	209 23.5%	285 32.1%	889 100.0%	
合計(N=970)	218 22.5%	215 22.2%	230 23.7%	307 31.6%	970 100.0%	

下段はそれぞれの群内における割合を示す

## ○ 「ひきこもり群」の内、関係機関に相談経験があるのは、22.2%に過ぎない(図表5)

⇒ 相談機関へいかにつながかが課題

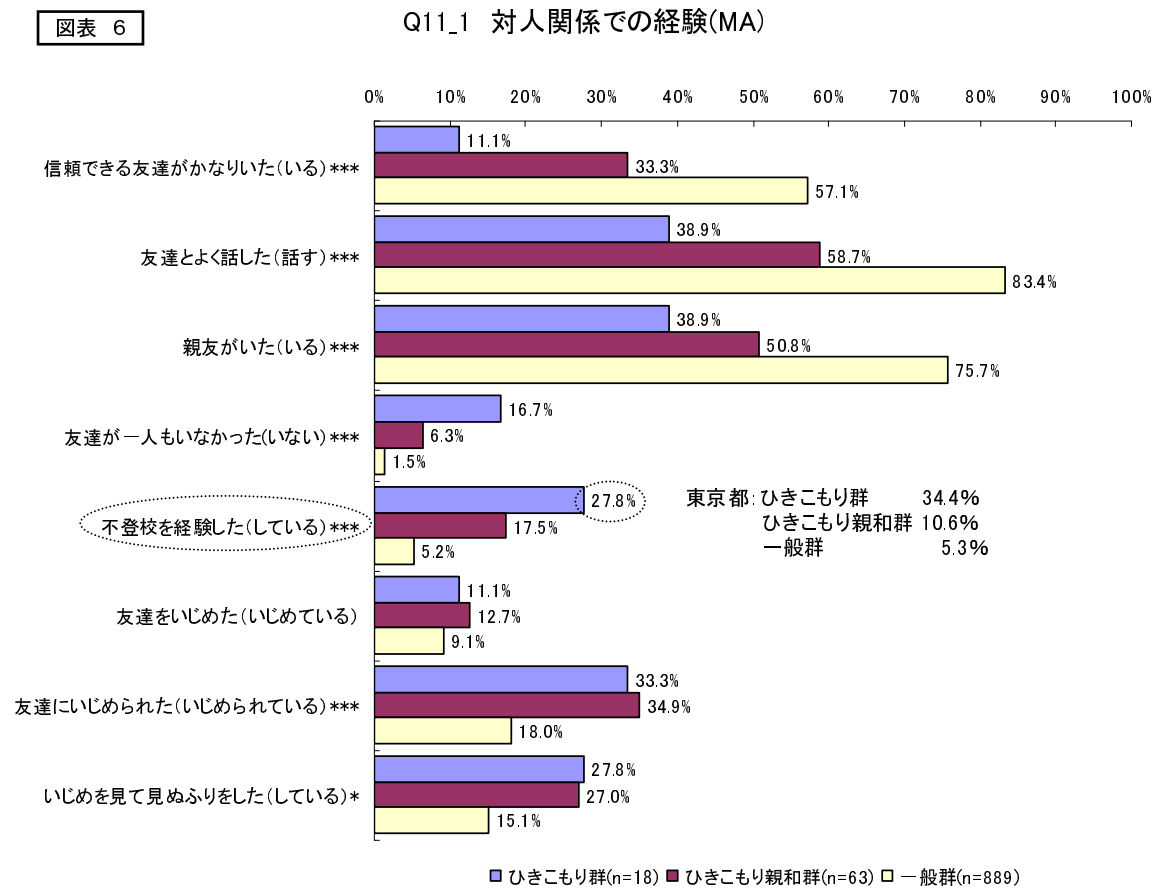
図表 5



## ○ 「ひきこもり群」の内27.8%が不登校を経験(図表6)(東京都:34.4%)

⇒ 学校卒業後も継続的な支援が必要

図表 6

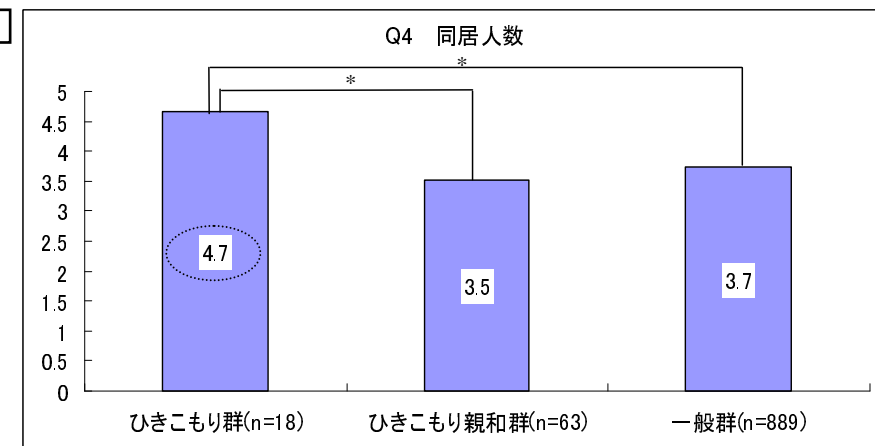


## ○ 「ひきこもり群」の同居人数は、4.7人と他の群より多い(図表7)

独立の世帯を持つことが困難なため、「ひきこもり群」は親を含むを家族が支えており、同居人数が多い

⇒ 「ひきこもり群」を支える家族への支援が必要

図表 7



## ひきこもり 負の連鎖

「対人関係スキルの苦手意識」(図表8)や「失敗への恐れ」(図表9)のあまり、「自己中心的」(図表10)なひきこもり青年は、傷つけないために対人関係を深めない、社会へ参加しないというを選択する。このような状態が長く続くと、他人と関わるのが苦痛に感じる心理状態が生じてくる。

## 対策

### 長期化しないために

- ・学校卒業後も切れ目のない支援が必要
- ・相談機関へいかにつなぐかが課題

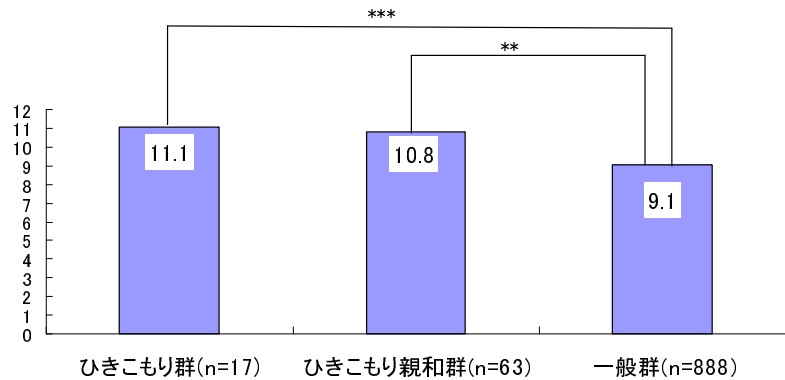
◎「ニート・ひきこもり支援モデル事業」  
「子ども・若者支援地域協議会」の設置等により関係機関が連携し、情報を共有しながら継続的な支援を実施

### 長期化した場合には

- ・地域での見守り、サポート等(本人、家族へ)
- ・NPO等の活用  
外出が苦手な人に、その外出の苦しみを共感的に理解し、苦しみを感ずるのは自然であると伝えつつ、外出をすることをじわりじわりと促す、というのは、元々矛盾した2つの方針を混合したものであるだけに、その個人の名人芸的な要素が必要。

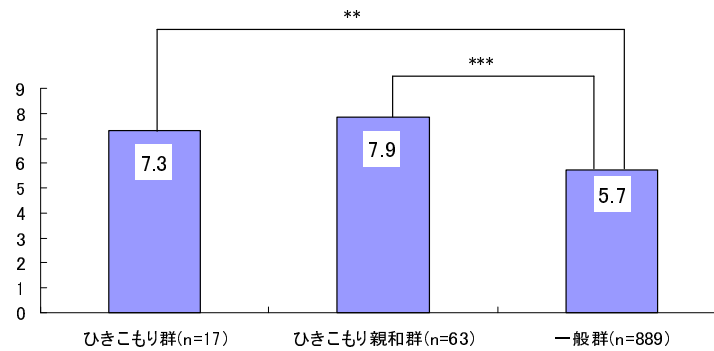
◎「若者自立サポート委託事業」  
NPOからそれぞれの特色を生かした企画提案を公募。審査のうえ、若者の自立支援に有効な事業を採択し、事業委託。

図表 8 Q37 対人スキルの苦手意識



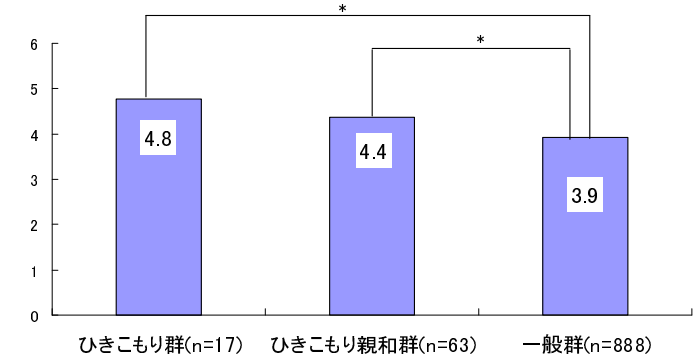
「対人スキルの苦手意識」の項目 (得点可能領域は4~16点)  
9. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある  
10. 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む  
11. 自分の感情を表に出すのが苦手だ  
12. 周りの人もめごとが起きたとき、どうやって解決したらいいかわからない

図表 9 Q37 失敗への恐れ



「失敗への恐れ」の項目 (得点可能範囲は3点~12点)  
31. 小さな失敗も絶対したくない  
32. 何事も、どうせうまくいかないと思ってしまう  
33. 一度失敗してしまうともう立ち直れないと思ってしまう

図表 10 Q37 自分の考えを重要視(自己中心性)



「自分の考えを重要視(自己中心性)」の項目 (得点可能範囲は2点~8点)  
29. 人の意見は自分にとっては重要なことではない  
30. 人の話を聞くより、自分の考えを大切にしたいと思う

## 「ひきこもり親和群」について

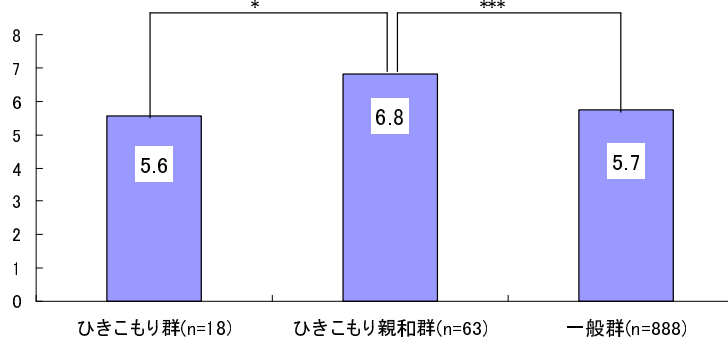
「ひきこもり親和群」とは、ひきこもり者に対して親和的な傾向を示す(気持ちがかかる)者で、「一般群」のうち、ひきこもりに情動的に傾いているものや、「ひきこもり群」に近い者のうち、なんとかまだ、閉じこもることのない日常生活を送っている者などの混合するグループと考えられる。

「ひきこもり親和群」は「ひきこもり群」よりも、「容姿の評価への過敏さ」(図表11)、些細な音が気になる等「知覚的な刺激への過敏さ」を有し、「自己の決定への干渉」を嫌がり(図表12)、「不安定な自己像を有する」という特徴が伺えた。  
これらの特徴の比較からみられる心理的特徴の違いは、「ひきこもり群」「ひきこもり親和群」ともに「ひきこもり」の心情を有しているが、外出をすることができている「ひきこもり親和群」は、外出しているが故に過敏さや不安定さを有していると考えられる。

## 対策

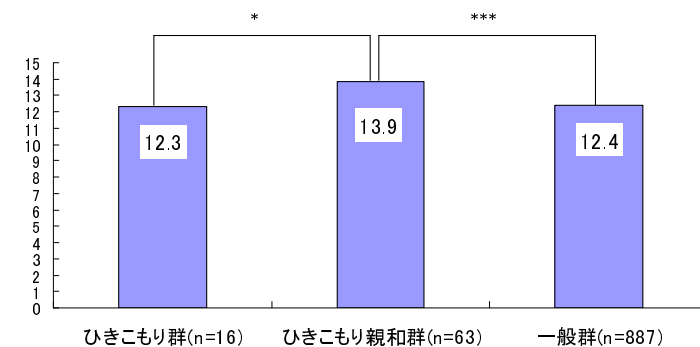
今後、各方面のご意見を伺いながら分析・研究を進める必要

図表 11 Q37 容姿の評価への過敏さ



「容姿の評価への過敏さ」の項目 (得点可能範囲は2点~8点)  
26. 人から自分の顔や姿がどう見られているのか気になる  
27. 自分の姿を他人にどのように思われようと気にならない(逆転項目)

図表 12 Q37 自己決定の干渉回避



「自己決定の干渉回避」の項目 (得点可能領域は4~16点)  
17. 自分の決めたことに人からとやかく言われたくない  
18. 重要なことについて、人の考えを押しつけられたいくない  
19. たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい  
20. 自分の生活のことで人から干渉されたくない